



荒尾市スポーツ推進委員協議会会長

## 田中 一大さん

たなか・かずひろ 1944年生まれ、原区在住。平成24年から万田中央地区協議会会長を務める。趣味はものづくり。最近はお孫さんと段ボールで動物を作っているそう。

スポーツ推進委員とは、市民の健康づくりのため、スポーツの指導を行うエキスパートです。田中一大さんは、委員として、31年間、生涯スポーツの普及にまい進してきました。子どもの頃から体を動かすことが好きだった田中さん。委員になる前は、自身も草野球をしたり、子どもたちにスポーツを教えたりしていました。

「お年寄りの皆さんには、病院を交流の場にするのではなく、スポーツで交流してほしい」平均寿命ではなく、健康寿命を伸ばしたいと考える田中さんの持論は「健康であればなんでもできる」です。「市民の皆さんの健康づくりに携わること、その人の夢の実現のお手伝いにもなるんですよ」と、語る瞳に誇らしさがにじみます。

市民と関われば関わるほど、田中さんをはじめ委員のメンバーは「質の高い指導をしたい」と、最善の指導法の研究を行ってきました。また、「たくさんの方に参加してほしい」と、ペタンクなどのニュースポーツの開発にも力を入れてきました。同委員会会長としても市のス

ポーツ推進活動を力強く引っ張ってきた田中さんですが、仲間の気持ちを汲み取れないとき、まとめ役として難しさを感じることも。時に話し合いが熱くなりすぎることもあります。互いの考えをきちんと話せる関係を築けることも委員活動の面白みの一つです。

「いろいろな人とつながりを持てることが何よりうれしい」仕事の傍ら、30年以上、委員だけでなく地区協議会の活動も精力的に行ってきた田中さんは「ボランティアは楽しく長く続けることが大切」と、話します。スポーツや地域の活動を通して得られる多くの人との出会い。そして、みんなに喜んでもらいたいという気持ちで田中さん突き動かしてきました。「いつか役員を引退するときに来ても、一個人として携われたら」と、笑顔を見せます。50年前に東京で見たオリンピックを6年後、再び見ることが田中さんの夢です。これからもスポーツを楽しみながら、市民と自身の夢をかなえるため、田中さんは健康づくりに励みます。



1. 協議会主催のむつごろうペタンク大会。ペタンクはフランス生まれのボールスポーツで、誰でも気軽に楽しめます。2. 「スポーツを身近に楽しんでほしい」と、協議会が中心となり、地区巡回教室を行っています。3. 年に4回、委員の研修会が開催されます。4. 31年間の功績が認められ、昨年、スポーツ推進委員功労者文部科学大臣表彰が贈られました。左から前畑市長、田中さん。